

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

レジャーや野外作業、農作業等でダニの生息場所に立ち入ると、ダニに咬まることがあります。ダニがウイルスや細菌などを保有していた場合、以下のような病気を発症することが知られています。

★日本紅斑熱

媒介ダニ：マダニ類
症状：高熱・紅斑など

★つつが虫病

媒介ダニ：ツツガムシ類
症状：発熱・発疹・リンパ節の腫脹など



フタトゲチマダニ

提供元：

国立感染症研究所

★ライム病

媒介ダニ：マダニ類
症状：初期には遊走性紅斑や発熱、
後に様々な神経症状など

★ダニ媒介脳炎

媒介ダニ：マダニ類
症状：発熱・筋肉痛・
頭痛・悪心など

★重症熱性血小板減少症候群
(SFTS)

媒介ダニ：マダニ類
症状：発熱・消化器症状など

	大きさ	生息場所
マダニ類	1mm~1cm ダニの中では大きな部類 吸血すると数倍になるものもある。	主に森林や草地などの屋外に生息
ツツガムシ類	0.5mm以下の微小なダニ	林、草むら、河川敷などの土の中

※全てのマダニ類・ツツガムシ類が病原体をもっているわけではありません。

特にダニの活動が
盛んな春～秋に
かけて注意！！

ダニに刺されないために＜予防のポイント＞

- ① 野山や草むら・藪・河川敷などダニが生息する場所に入る時は、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。
- ② 服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディート成分を含むもの）を噴霧しましょう。（虫除け剤の子どもへの使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
- ③ ダニが多く生息する場所では、地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ④ 野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時にはダニが肌についていないかチェックしてください。ダニがついていた場合は無理にとろうとせず、皮膚科等を受診し、とってもらいましょう。
(ダニは数日～10日かけて吸血しますが、痛みやかゆみはあまりなく、咬まれたことに気づかないことが多いと言われています。)

★野外活動の後、数日～2週間程度のうちに発熱・発疹等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診してください。その時、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えて下さい。